



会報 2017年6月号

日本ニュージーランド協会 (関西)

創立 1970 年

New Zealand Society of Japan, Kansai

Spring has passed,
and summer seems to have arrived:
garments of white hung to dry
on heavenly Kagu Hill.

Empress Jito

関西は梅雨に入りましたが、NZでは各地のスキー場がオープンしました。
NZ航空は、10月27日より関空からオークランドへ週3便の直行便を再開しますので、
便利になります。NZ未体験の会員の皆さんはこの機会に訪れてはいかがでしょうか。
ご報告が遅れましたが、4月15日の会員総会と懇談会は当初計画通り終了しました。
その内容は資料を同封いたしますので、ご一読をお願い申し上げます。



第266回例会 (ラム&ビーフ 調理と試食の集い)

事務局：〒550-0002

大阪市西区江戸堀1-23-26 西八千代ビル3階C

N.S.コンサルタント内

電話・FAX：(06) 6607-2112

HP：http://nzsocietykansai.com

E-mail：nzsjk@yahoo.co.jp

2016年度事業・収支概要報告

例会：8回開催 189名参加 会報：4回発行 理事会：5回開催
収入：1,140,584円 (前年度からの繰越金：370,281円)
支出：1,140,584円 (次年度への繰越金：357,369円)

2017年度事業計画・収支予算概要

例会：6回開催 臨時例会1回開催 会報：4回発行 理事会：5回開催
ホームページの充実 会員増強
収入：1,123,419円
支出：1,123,419円 (予備費10,000円含む)

* 詳細は、同封資料をご参照ください。

秋の行事案内

下記の2例会が決定しておりますので、予めご予約ください。
詳細は、9月に改めてご案内します。

11月18日(土) 五條・柿狩り

今年も太津会員のご好意により開催いたします。ご期待ください。

12月7日(木) クリスマス例会 神戸外国倶楽部

会場の都合などにより初めて平日に開催いたします。
アトラクションなどのご提案をお待ちしています。

会費のご請求について

3,000円をゆうちょ銀行へ8月末までにお振込みください。ご協力よろしく申し上げます。
ユース会員は2,000円です。
振込先は 別記の通りです。

■ 会員総会懇談会の報告 （4月15日）

会員総会・昼食（ラム料理）の後、三重日豪・NZ協会の宮本忠会長、宮本由紀子理事をお迎えして開催しました。

宮本会長は、三重大学名誉教授・元東北公益文科大学NZ研究所長・リンカーン大学（川瀬初代会長母校）客員教授などのご経歴をお持ちです。ご専門は行政・環境問題。行政改革中のNZで研究されました。

オックスフォード時代のエピソード、リンカーンでの恵まれた研究環境など興味深いお話を伺うことができました。NZでは日本の評判が高いですが、移住者には厳しい人もいます。旅行者には優しいようですが。

三重協会では、毎年オーストラリアとNZへ交互に旅行をされていますが、レンタカー利用でモーターは現地で探すことが原則だそうです。形式的な表敬訪問などはしていないそうです。旅の危険はありますが、メリットのほうが多いとのことでした。

宮本会長は、「タスマニアを旅する60章」を上梓されていますが、NZに関する著書を期待します。



（中央電気倶楽部にて）

■ ラム&ビーフ 調理と試食の集いの報告 （5月13日）

今年11回目を迎えた例会は、予定通り「こうべ市民福祉交流センター」で開催しました。ローストビーフ・子羊の香草パン粉焼き・ラムのバルサミコ酢・みそ大葉和風ロースト・パブロバの5チームに分かれ和気あいあいの雰囲気のもと手際よく調理が進みました。レストランでいただく参加費の何倍もの料金ですが、皆さんも気軽におなか一杯に召しあがられました。お味も最高でした。

ご協賛いただいたアンズコ・フーズのパンフレットを配布しましたので安全で美味しいビーフとラムについて改めて認識を深めることができました。

同社のHPには調理方法等が紹介されていますので検索ください。 <http://www.anzco.co.jp>



（調理・試食風景）



(調理・試食風景)

参加者 (松元美智子・山野敏子・西原博子・野田貞子・迫キミ子・山内龍男・北野和夫・林進・アンセルヘスス・岡田みはる・岡田廣・松元昇・外山純・外山佳子・平戸ヨウ子・興津芳子・西川精一・小松大氏・塙幸子・石井久行・井上佳久・中村重夫・林園子・山田輝子・柳田勘次・正木紀道・中谷紀子・宗佐保・山下誠二)

■ ニュージーランド点描 (寄稿)

3月31日から4月16日にかけてニュージーランド旅行に出かけました。この時期家内がひどい花粉症に罹るのでそれを避けるため例年どこかにでかけますが今年は結婚50周年なのでその記念も兼ね、かねて石井会長さん、私の従弟の中村理事さんのお話に刺激を受けていたNZへ少々無理して出かけました。いつも旅行の際は主要目的をたてますがそれに従って感想を綴ってみました。

目的1 Kiwi 鳥を見ること

今回の旅の3大目標の一つがKiwi鳥を見ることであった。その為クイーンズタウンのKiwi&Birdlife Park, クライストチャーチのWillowbank Wildlife Reserve と訪ね歩くがKiwiは見損ねた。最後のチャンスでロトルアでTePuiaに行く。例によって暗くした建物の中でガラス越しのKiwiを探すがなかなか見つからない。しかししばらくして目が慣れてくるとなんと、

目の前にいるではないか！しかも2羽がのそりのそりと緩慢に動いている。ああ、ついに生きたKiwiを見られたと感激して妻に言うと相変わらず見えないという。「おかしいなあ、目の前にいるやないか」ふと見るとなんとサングラスをかけているではないか。「そらあかんで」そして見直すと「おった、おった！」と奇声を発したのである。

【教訓】Kiwiを見たいならサングラスは無用

目的2 トレッキング

我々にも可能な往復3時間以内で高低差の少ないコースとしてMilford Track, Aoraki/Mt. CookのHooker Valley, トンガリロのTaranaki Fallsコースなどを歩いたがいずれもよく整備されており素晴らしかった。ただ初秋の気候で山野草の花があまりみられなかったのが残念でした。Milford Trackではツアーに参加したがパーティ

は豪州人夫婦 3 組、我々とガイドの 9 人、我々以外は中年 40 歳台であろう。午後からフィヨルド内のクルーズがあるのでゆっくりしておれず早朝から美しい自然林の中をかなりの速足で歩いてゆく。往きは要所で立ち止まって説明するのでその間に追いつけるが帰りはほとんどぼしてゆく。なんとかついていって船着き場 Sand Fly Point に定刻までにもどった。出発前ガイドは我々の年齢(79 歳と 75 歳)を聞いて大分心配していたようだが完歩したのでやっとな安心したらしい。「自分の親より年上だが大したもんだ」というので「日本ではこれくらい当たり前だ」とちょっと恰好をつけておいたがかなりしんどかったのは事実です。

【教訓】 恰好を付けるとしんどいこともある。



(タラナキ・トレッキングコースにて。

天気が悪く聖山トンガリロは見えなかったが、これは山の神が「もう一度おいで」と言っているのかもしれない。)

目的 3 Maori 文化に接すること

2 週間の滞在で Maori 文化にどれだけ接しうるか、疑問はあるがそれでもできるだけやってみよう。まずオークランドで海洋博物館とオークランド博物館、クライストチャーチのカンタベリー博物館などに行ってみる。

かの有名なアウトリガーのカヌーも実見できたがかなり大きなものもあるが船体の基本は割り貫きの丸木舟であって甲板がない。

アウトリガーの取り付けも頑丈そうだがこの船

で太平洋の荒波に耐えてハワイから NZ まで、ポリネシアからチリーまで航海して回ったとは Thor Heyerdahl ならずとも俄かに信じがたい。Maori 人の DNA は台湾、チベットの原住民族とかなり近いというがそれなら日本人ともかなり近縁であろう。

考えるに英国人は南ア、豪州、NZ、アメリカ大陸などに植民したが原住民族との接し方はスペイン人ほどではないにしてもおおむね過酷であった現在では原住民の法的立場は大幅に改善されているとはいえ、過去に受けた社会的、経済的、文化的打撃からは容易に立ち直れていない現状が外国人にも容易に見て取れる。翻って Maori の現状はそれに比べ much better ではないかと見える。

勿論狩猟採集を主生業とする原住民のところに農業、牧畜を主生業とする移住者が入り込むのだから森林の耕地化、土地囲い込みなどを通じ軋轢は避けられず、歴史は幾多の抗争、時には武力闘争もあったことを語っているがそれでも他国のようなアパルトヘイト(南ア)、民族文化根絶政策(豪州)、居留地への囲い込み(アメリカ)といった苛烈な処置はなかったようでそれが今日の文化融合的現象につながっているのではないか。

空港、道路などにもまず Maori 語(Maori 文字はないのでローマ字表記だが)、ついで英語表記になっておりこれは珍しい。

地名でも例えば Aoraki/Mt. Cook となっており初めは二つの土地の併記かと思ったがこれは同じ場所の二重表記であった。その場合も現地地名の Aoraki を前に出していることは奥ゆかしい。このようなやりかたはけっして表面的な融和政策ではなく真剣な民族融和策の追及であろうと思う。

(但し、原田敏治氏によれば地名併記は多いが、マオリ語が先にくるのは Aoraki だけのこと)政治の面でも Maori 特区の選挙区が 5 つあるらしいが Maori 人議員数が特区数より少ないのは解しかねる。

勿論旅行者には見えないところで様々な問題が内在していることは容易に想像できるが国民の文化共存への強い意思はよく見て取れるのである。そ

のせいで All Blacks は Springboks, Wallabies より強いのであろうか。

【教訓】 異なる民族の融和はお互いの相当な努力がなければできないことではない。



(マオリダンス・テプイアにて、なかなかの迫力)

目的4 New Zealand のついでの理解を少しでも深めること

かつて司馬遼太郎氏はアメリカに数週間滞在した後「アメリカ素描」という小冊子を書いた。その中で司馬遼氏は「アメリカとは法律を構造材として高々と大屋根を組み上げ、中はがらんどろのまま人が自由に出入りできるようにした体育館のような構造の国家である」といった。司馬遼太郎氏はアメリカ史やアメリカ政治の専門家でもなくまた長期に滞在したわけでもないが実に見事にアメリカの本質を言い当てていると思う。特に最近の大統領の行動をめぐる司法当局、議会の動きを見るにつけその慧眼に感じ入る。その司馬遼太郎氏の蟹にならうとは烏滸がましいことであるが敢えてここで「私のニュージーランド理解」を述べてみよう。ただし私の場合「素描」にも及ばぬ「点描」であるが。私の理解では「ニュージーランドは自然との共生を Backbone として組み上げた国家である」と。NZには酪農、牧畜、観光業の他、産業らしきものはほとんどない。自動車産業も化学工業も鉄鋼、アルミなどの金属工業も繊維産業も見事に何も無い。石油、天然ガス、鉱物などの資源もほとんどない。国富の源泉は酪農、牧畜、観光の他、小規

模の林業、農業、漁業、鉱業があるだけだがそれでいて一人当たりG N Pは日本22位と並ぶ23位である。これは決して偶然の所産ではないだろう。余談ながらT P P交渉でNZが酪農製品の貿易自由化、関税引き下げに必死になって迫ってきた理由も分るような気がします。

これらの産業に国富の源泉を頼り生半可な工業化は意図的に選択しなかった。これは過小な人口のため工業が成り立たなかったと見るのは謬見であろう。なぜなら工業化政策をとるなら必要な労働力を近隣から移入することも可能であったはずである。しかしNZは自然との共生を最重視して工業化の道を選ばなかった。工業化して人口が増えれば必然的に都市のスプロール化、貧富の格差拡大、宗教紛争、犯罪、公害の増加などの諸問題が発生し自然の破壊もある程度避けえなかっただろう。しかしNZは強い決心をもって工業化の道を放棄し代わりに自然との共生という道を選び取ったのである。

今日NZを訪れた者は町を一步でればすぐ目に入る緑の牧草地の美しさを讃嘆する。これは人工的に作られた第二の自然であるが決して偶然の所産ではない。工業化放棄の結果としての必然なのである。

エネルギー政策もまた自然との共生である。水力、地熱を中心とする自然エネルギーが全エネルギーの80%だがさらにこれを90%にまで高めるといふから驚異的である。

更に自動車のEV化が進めば化石燃料起源のエネルギーはさらに低下するだろう。

しかし皮肉なことにこのNZにも公害問題があるという。それは牛が排出するガスが大量のメタンガスを発生させこれが地球の温暖化に悪影響を及ぼすといふから皮肉なことである。これにはさすがのキウイも困っているようだがこれもやがて牛か牧草の品種改良でメタンガスレス牛を作り出して解決することを期待したい。

さてこの自然との共生には人口政策の裏打ちがある。非工業化は人口の増加を必要としないので無理な移民増加は不要であり、社会の必要に応じバ

ルブを開け閉めすれば済む。

以下はオークランドのタクシー運転手から聞いた話であるがここにNZの人口政策が如実に表れていると思われる。彼はインド人で10年前NZに移住してきた。彼の姉がNZ在住のインド人と結婚しその後呼び寄せ移民で両親も兄弟姉妹も滞在ビザを取得してNZに移住してきたという。ところが現在はこのような呼び寄せ移民はほとんど許可がない。その上滞在許可の定期的更新も時にはできなくなるという。彼のフィアンセはフィジー出身だが最近滞在ビザ更新が必要となって手続きをした。その際彼女は職歴の欄にごく短期間の職歴の記入を省略して提出した。ところが移民当局はそれを把握しており虚偽申告としてビザ延長を許可しなかった。そうすると二人はNZで結婚して生活できないので今あちこち駆け回ってなんとか許可してくれと頼みまわっているところだという。

NZの出生率は2人であるから長寿化とともに徐々に自然増するだろうが移民を増やさない限り460万の人口はほとんど変動しないであろうがこれが自然との共生を可能にしている大きな要素であろうと思うのである。

看板の少なさと小ささ、ネオンや電飾の少なさ、電線の地中化、館内放送の少なさ、なども自然との共生政策の一面であろう。帰国後街に溢れる看板に眼がちかちかしたが1週間もしたら何も感じなくなったがこれは感覚の麻痺であり褒められたことではない。

そしてこういう環境対策がまた観光業の隆盛をもたらしているのである。しかし中国人を中心に観光客が急増しており近い将来受け入れキャパを越えて増えれば観光ビザの制限ということもありえるだろう。NZはそれくらいのことはやっても不思議ではない国なのである。

追記：勤め人としてこれまでにモスコウ・ニューヨーク・アクロン（オハイオ州）・カイロ・ドバイに駐在、海外生活18年。NZには40年以上前に2日間オークランドに出張しただけだったので、

今回の旅行がほとんど初めての滞在でした。レンタカーは、クイーンズタウン・テアナウ・アオラキ・クライストチャーチ間、ロトルア・トンガリロ・オークランド間の2回使い、家内も運転しました。合計1600km。峡谷の道、峠道、湖畔の道、草原の道とワンディングロードと変化に富み美しい景色を見やりながらのドライビングは少しも飽きさせない至福な時間でした。今年80歳になるので、ぼつぼつと所属団体などは縮小しつつあり貴協会にも入会していませんが、今年の柿狩り・縁日例会など楽しそうな集まりには飛び入りで参加させていただきました。柿狩りでは農園主の太津様の豪放なおもてなし、特に私が絵の好きな友人のために枝付きの柿の実を所望したところいきなり10個くらい実の付いた大きい枝を切り落とし「もっていけ」と言われたのには痺れました。
(浜中謙治)



(スカイタワー展望台から人が落ちてきたのでびっくりした。よく見るとガイドロープがついており無事着地していた。)

■NZニュース・クリッピング

(4月～6月)

・政府が後押しする高齢者施設の介護士の賃金改善 (4.20)

6月より約5.5万人の介護士の給料が、資格や経験によって15%から49%アップされる。大半が女性である。

-
- ビザ改訂を公表 8月中旬施行 (4.21)
永住部門の条件変更の目的は、移民の数より質を上げるため。詳細は7月に発表。
 - 国内で最も多い盗難車はスバル (4.21)
カンタベリー地区ではマツダデミオだが、全体ではレガシーとインプレッサの盗難が多い。
 - 移民数、また更新記録 (5.1)
3月までの1年間で129500人が移住
57600人が出国した。
中国からが一番多く、イギリス・フランスが続く。
 - 留学生数増加、米国・ラテンアメリカからも (5.2)
中国からは18%、ラテンアメリカからは31%、米国46%、チリ100%、ベトナム115%、一方インドからは24%の減。
 - 貧富の差拡大 (5.9)
ビクトリア大学の調査分析で、ほとんどのNZ人の貯蓄は1万ドル以下で、流動資産も非常に少ないという結果が出た。約170万人は、現金貯蓄額が1万ドルに満たないという。
国内で最も裕福な10人が、国内全体の富の60%を所有している。
 - NZの大学、世界ランキング7位 (5.11)
NZ大学システムは、総合的に世界でも7番目に位置する結果がでた。米国は1位、オーストラリアが10位。
 - 英語・マオリ語のバイリンガル都市を目指せ (5.11)
幾つかの町では、交通標識・ATMやレストランのメニューなどに英語とマオリ語の2言語の表示を検討している。既にワイロアでは先行して実施している。
マオリ党の共同党首の一人、フラヴェル氏が昨年アイルランドに旅行した際、この2言語標記の導入案を思いついたという。ロトルア市長のチャドウィック氏は、市民の29%がマオリ語を話す現状を踏まえ、このバイリンガル表示は理にかなっていると発言した。
 - 観光地の設備投資に補助金を (5.15)
海外からの観光客増加により、南島のトレッキングやビューポイント等の観光地では、駐車場やトイレ等施設が不十分であることが問題視されており、政府は新しく補助金を出すことを決定したが不足である。
環境保護局では11日、トレッキングコース入場料を外国人旅行者に対し、現地人より多く徴収する方針を発表した。
 - 「マイホーム持てない」嘆く若者 (5.16)
オークランドに住む若い人々は、自分の家を持つ夢をあきらめつつある。
タイソン・ベケットさん26歳は、食品小売店でアシスタントマネジャーとしてフルタイムで働いているが、マイホームを持つためには郊外に移住しなければならないと考える。
「私の年代で自分の家を持っているのは、キーウィセイバーを利用し両親から多額の援助を得ている人だけです。車も持っていないく外出もあまりしません。それなのに自分が家を持つ手段が皆目見えないのです。
 - 新観光スポット計画「モア・タウン」自然破壊を危ぶむ声 (5.16)
カラメア付近のオパララ川水系にある鍾乳洞をライト・アップしたり、絶滅したモアの彫像等を置いて観光スポット「モア・タウン」にする計画が自然保護局とビジネス革新雇用省が進めているが危惧する声もある。
 - イエローアイドペンギンが2060年までに絶滅？ (5.19)
オタゴ大学の調査で、特別な対策をしないと2060年までにNZ固有種のこのペンギン
-

が海岸から消えるだろうとのこと。2013年には60羽が死亡しており、最近繁殖数も減少している。
減少原因は、漁業と気候変動、人間による環境破壊。

- ・キーウィフルーツのゼスプリ、年間利益2倍に日本への輸出好調 (5.29)
ゼスプリ社の輸出利益は、35.8ミリオンドルから73.7ミリオンに跳ね上がった。
成功の秘密は健康に焦点を当てた販売戦略とのこと。

- ・ファカパスキー場、オープン一番乗り (6.6)
南島のマウント・ルアペフを皮切りにNZのスキー場がオープンした。
各地のスキー場も間もなくオープンの見込み。

- ・ジョン・キー元首相がナイトに (6.7)
8年間首相を務めたキー氏は、女王誕生日に叙勲・ナイトの称号を授けられた。
ラジオインタビューで「これはちょっとした肩書きになったね。でも僕の場合は今まで通り、ジョンと呼んでくれよ。そのほうが簡単だし」と笑いを交えて語った。

(NZ大好きより)

■ 年会費のお振込みのお願い

当協会は皆様からの年会費により運営しております。2017年度(2017.4~2018.3)の年会費をご請求いたしますので、8月末までにお振込みいただきますようお願いいたします。

3,000円 ユース会員は2,000円

ゆうちょ銀行に口座を持ちATM利用の際は、その月3回まで手数料は不要です。

- ・他行からの振込：店名 ヨンイチハチ 店番 418
- ・ゆうちょからの振込：記号 14110 番号 56529351
- 普通口座：5652935 名義：日本ニュージーランド協会(関西)

■ 会員増強について

会員増強は、協会運営の基盤です。NZに興味ある方をご紹介ください。
現在、会員は66名です。

■ ご寄稿のお願い

皆様からの原稿をお待ちしています。NZに関する情報・旅行記等をお気軽にお書きください。次号の締め切りは、9月15日です。